

中国大返しちゆうごくおおがえ（峰章山みねしようざん）

秀吉ひでよし 兵をへい 進むすす 中国のちゆうごく 東ひがし

才華のさいか 軍勢ぐんせい 連勝のれんしょう 功こう

黒田くろだ 密かにひそ 傳うつと 大謀のだいぼう 策さく

信長のぶなが 謀にはかりごと 落ちてお 洛中にらくちゆう 死すし

刻をとき 急げばいそ 心はこころ 燃ゆるも 山陽のさんよう 道みち

軍をぐん 整えればととの 敵はてき 近しちか 黒雲のこくうん 空そら

嗚呼あゝあゝ 遙かにはる 望むのぞ 光秀のみつひで 陣じん

此をこれ 砕きくだ 成さんとな 欲すほつ 宿願のしゆくがん 夢ゆめ

秀吉進兵中国東 才華軍勢連勝功  
黒田密傳大謀策 信長落謀死洛中  
急刻心燃山陽道 整軍敵近黒雲空  
嗚呼遙望光秀陣 碎此欲成宿願夢

解説 織田信長が秀吉に命じて行った毛利輝元の勢力圏である山陽道・山陰道に対する進攻戦。中国征伐とも称するが、光秀が本能寺を襲撃した事を知った秀吉は、光秀を討つために、京に向けて軍勢の移動を開始しました。高松を発し、姫路を経由して京に向けて、約二百九十九キロを大雨の中、約十日間に渡る軍団大移動を行ったのです。これは、日本史上、屈指の大強行軍として知られ「中国大返し」と呼ばれました。

語釈 ※中国||日本の地域の一つで、本州西部に位置する地方。※才華||ひいでた才能。※軍勢||軍の勢力。軍隊。※黒田||黒田官兵衛の事。豊臣秀吉の軍師。側近として仕え、調略や他大名との交渉などに活躍した。※大謀||大きなはかりごと。大きい事をしようとする計画。※洛中||京都の市街地。※山陽||本州の瀬戸内海側に位置する地方。※宿願||かねての願望。

通釈 秀吉が信長に命じられ中国地方攻略に進む。優秀な軍勢は連勝また連勝である。秀吉の軍師・黒田官兵衛は信長失脚の謀として本能寺での茶会を計画し、手薄な本能寺での茶会を明智光秀に漏らし、信長暗殺に導き、信長は光秀に本能寺で討たれてしまいます。この報を聞いた秀吉は「中国大返し」と呼ばれた強行軍を指揮し、光秀軍を撃破し、宿願の天下取りを成し遂げたのです。